

2014（春学期）政治経済学入門講義レジュメ

および過去の試験問題収録

Wakamori Fumitaka

序章 政治経済学とは何か

——その意味とねらい——

I 経済 Economy とは何か

形式的な意味：最大化と節約の原理に従って、財を効率的に利用し管理すること

キーワードは効率、最大化、合理的行為

実質的な意味：物質的な欲求の充足のために、

人間が自然および仲間に対して働きかける

行為の全過程

キーワードは再生産、制度化、制度変化

経済過程の制度化の3つの様式

互酬（協力）：親族間や隣接集落間の財やサービスの継続的やりとり

婚姻、出産祝い

再分配：権力をもつ中央と社会構成員との間の財やサービスの継続的やりとり

農耕社会における領主と農民の関係、現代社会の税や保険料

交換：最大化原理に従って合理的に選択し行動する経済人の間の

財やサービスのやりとり

利潤最大化、欲求最大化、労働力・土地（自然）、貨幣の商品化

II 政治経済学の対象

近代社会の特徴：経済領域と政治領域の分離

生産手段と物理的強制手段

経済領域における経済：生産、交換、分配、消費、投資

経済領域における政治：法律による経済領域への介入、所有権や契約履行の保障

政治領域における経済：再分配過程、税の徴収と公共サービスの提供

福祉国家

政治領域における政治：選挙による政権選択、立法過程

表 0-1 政治経済学の対象

	経済	政治
経済領域	生産・交換・消費・投資	法による経済活動の保護と規制
政治領域	再分配過程 徴税と公共サービス	立法過程,内閣・官僚制, 選挙による政権選択

III 再生産の経済学

再生産：存続、維持、持続性、規則的な繰り返し

政治経済学：実質的な意味の経済を再生産の視点から研究する

再生産の3つの条件

- ① 人間の生活に必要な財の年々の生産と消費——規則的に維持される必要性
交換比率の安定の確保—>社会的に必要な財を提供するための社会的分業の再生産
生産財と消費財の一定比率
- ② 人間と人間の関係の再生産
経済活動に労働力を提供する賃労働者：健康で文化的な生活による再生産
長時間労働の規制、最低賃金の保障—>労働力の正常な再生産の確保
- ③ 自然と人間の関係の再生産
地球環境：経済活動に原材料と資源を提供、廃棄物を分解・浄化
生物多様性の劣化、温暖化、大気汚染、酸性雨、砂漠化、公害輸出
市場経済は再生産の第3の条件を確保できるかは21世紀最大の課題

IV 制度の経済学

政治経済学は制度の経済学である

制度とは：意思決定と行動を誘導するルール、規範、慣行の総体

資本主義経済の定義「賃労働による利潤目的のための商品生産」

資本主義市場経済の動きは諸制度によって制約され、また方向づけられる

私的所有と契約の保護

労使関係に関する制度

企業間競争と企業組織の仕組み

国家の財政・金融・福祉政策

国際的な貿易、投資、決済に関する制度

諸制度の変化→資本主義経済の変化

19世紀の資本主義→20世紀の資本主義→21世紀の資本主義

IV 民主主義の経済学

民主主義：公的討論と民主的意思決定によってコンセンサスを作り出す制度

20世紀の最大の成果（アマルティア・セン）

3つの大きな意義

- ① 経済的・政治的自由の拡大→人びとの暮らしと人生を豊かにする
婚姻の自由、職業選択の自由、居住の自由など
- ② 国民の生存と安全に対する政府の責任→貧困や飢えが発生しにくくなる
責任を果たさなければ、選挙による政権交代の可能性
- ③ 諸価値に優先順位を付ける、政策の優先順位を決定する
「今、社会にとって何が重要か」についてのコンセンサスを作り出す

要するに

民主主義のもとでは、一人ひとりが自分の置かれている状況を改善する権利を有する
→制度変化の可能性

VI 現代の経世家の学問を目指して

政治経済学は現代の経世家の学問になることを意図している

スミス『国富論』第5編：経済学は経世家の学問である

経世家 **statesman**：自分の属する社会をよりよいものにする情熱をもち、
これを実践に移そうとする人びと（政治家のみではない）

現代のジレンマ

グローバル競争とワーキングプア

経済成長と環境破壊

消費者「天国」と多数の勤労者の「働き過ぎ」

問い：経済問題や環境問題を経済成長とは別の仕方では解決できるか

第1章 人間と社会と自然

I 人間とその社会

1) 人間とは何か

「人間とは、社会性と個性という矛盾し合う性質を併せ有する自然的存在である」

社会性を有する→社会のなかで相互に依存し支え合いつつ生きる

特有の慣習、制度、文化の共有

役割、位置、関係についての共通の認識（協力、多様な役割）

個性的存在である→社会における位置の相違、役割の演じ方の個人差

他の生物と同じように自然の一部である→自然の摂理（法則）に背けない

* 人間の子供の発達の場合としての社会

2) 社会の構造

- ・ (大地・自然) 経済的構造／法律的・政治的構造／精神的構造

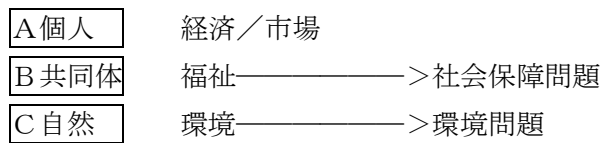
経済構造(土台)の変化→他の2つの構造(上部構造)の変化

上部構造の土台への介入、反作用(例 営利企業の法令順守)

経済的構造と他の2つの構造との相互作用

- ・ 経済的構造の動態的变化: 市場化と機械化

人間と社会のあり方は、個人／共同体／自然あるいは経済(市場経済)／福祉／環境という3つのレベルの重層的関係によって構成される



近代化=産業化とは、Aの個人の領域が、第1に個人の伝統的共同体からの自立によって、第2に機械(テクノロジー)によって自然を積極的に利用し支配することを通じて、Bの共同体やCの自然の領域から自立し離陸していくプロセスである。このプロセスは、環境問題と社会保障問題を不可避的に生じさせる。

II 人間と自然との物質代謝

(1) 人間労働

人間と自然との物質代謝を媒介、調整、制御する過程

社会を作って能動的に外部の自然に働きかける

自然を加工し、形を変え、生活に必要な有用物を獲得する

有用物を消費して、自然界に還元する

(2) 人間労働の3つの特徴

- ・ 合目的的活動: 目標設定、知識や情報を駆使し目的意識的に外部の自然に働きかける
- ・ 人間労働の結果としての生産物→生産と消費との分離
- ・ 道具や機械の利用、その多様化→自然への働きかけの範囲の拡大と多様化
——>人間による自然の支配→「自然の一部としての人間」の範囲を超える

3) 労働の意義

- ・ 本源的・一般的な経済資源
- ・ 人間の自己実現: 勤労の権利(憲法27条)、ディーセント・ワーク(人間らしい仕事)
- ・ 社会の存続と発展の根本的・一般的条件

4) 労働過程の諸要素

①労働そのもの、②労働対象、③労働手段

5) 労働過程の成果(テキスト19ページの図を参照のこと)

生産物、使用価値

III 労働と生産

1) 労働過程と生産過程

- ・ 外的自然に働きかける人間の活動をその結果である生産物の観点から見る
労働手段、労働対象→生産手段
労働そのもの→生産的労働
生産手段、労働力：生産過程の条件として認識され、生産要素として総括される
 - ・ 労働の生産力＝労働生産性：生産量／労働量とその変化
信頼関係、分業の深化、知識・情報の共有、科学の技術的応用可能性など
- 2) 再生産と富
- ・ 自然と過去の労働の結果である生産物→次の生産過程の条件となる
生産物の一部→新たな生産物を作り出す手段、つまり生産手段として用いられる
生産物の残りの部分→人間のための生活のための手段、生活手段として消費される
生産過程で消耗された労働力の回復に寄与
生産手段と労働力の結合→生産過程の繰り返し：**再生産**
 - ・ 富：人間の暮らしに役立つ財
用途の観点から、生産資料（生産財）と生活資料（消費財）に大別される
生活資料：物質的欲求を満たすもの、精神的・文化的欲求を満たすもの
- 3) 消費過程
- 生産過程：生産要素の消費、生産的消費
個人的消費：本来の消費、消耗された労働力の再生産
20世紀の大衆消費社会の出現：労働者の消費社会への参加
- 4) 「持続可能な社会」の条件：労働が繰り返しおこなわれねばない
- ・ 社会全体の労働が諸欲望の種類と量に応じて適正な割合で配分されること
専門的な職業、社会的分業の展開
 - ・ 人間と自然の間の物質代謝：大自然の再生・回復力や浄化の能力の限度を超えないこと
 - * 地球の生物生産力とエコロジカル・フットプリント（テキスト 211 ページの図参照）
 - ・ 仕事＋多様な活動に従事→自らの能力の全面的な発達
* ワークライフ・バランス＝仕事と生活（子育てや介護、技能訓練）の調和

第2章 市場経済の生成と商品

I 市場経済の歴史と存立条件

1) 市場経済とは何か

社会的総労働の生産諸部門への配分→市場メカニズムにゆだねられる経済
市場経済の成立の前提＝市場の形成＜＝財が交換を目的として生産される

2) 物、財、労働生産物、商品の区別と関連

テキスト 28 ページの図を参照のこと

3) 商品経済または市場経済の歴史的展開過程

労働生産物の商品への転化の契機：交換という活動

共同体と共同体の間で開始：剰余生産物の交換→生産物の一部が交換目的で生産

古代世界：貴金属が貨幣として利用される

4) 市場経済の存立条件

社会的分業：社会的分業の一環としての労働＝相互に依存しあう関係

生産手段の私的所有：排他的対立の関係

矛盾の解決としての交換：自分の労働生産物の譲渡にもとづく他人の生産物の領有

私的所有権の確定による市場経済の発展

II 市場経済の論理と商品の2要因

1) 市場経済の特徴

生産当事者の私的労働→労働生産物の交換を通じて事後的に社会的性格を評価される

2) 商品の2要因と労働の二重性

① 使用価値

商品自体の野自然的な諸属性：生産者と異なる人の欲望を満足させようという性質

② 交換価値または価値

ある商品の他の商品との交換割合

1kgのコメの交換価値 = x 着の上着 = y 足の靴下 = z g の金等々

1kgのコメの交換価値 = x 着の上着に共通なものは何か

使用価値の度外視、稲作労働と裁縫労働の度外視→残るもの = 人間労働力の支出

価値 = 抽象的人間労働の結晶

商品の2要因、使用価値と交換価値で表示される具体的有用労働と抽象的人間労働

テキスト 37 ページの図 2-2 を参照のこと

3) 価値の大きさ

商品 1 単位の価値の大きさ = その生産に社会的に必要な労働の量によって規定される

標準的な生産条件と平均的熟練度をもって、その商品の生産に必要な労働時間

労働の生産力 (生産量 / 労働量) に反比例して変動

4) 価値形態または交換価値

① 単純な価値形態

90kg のコメ = 1 着の上着 = y 足の革靴等々

90kg のコメは 1 着の上着に値する：コメの価値が上着の自然的形態で表現される、上着は等価物として機能する。

② 全体的な、または展開された価値形態

1 着の上着 = 90kg のコメ または = 3 足の革靴 または = 45 束の蠟燭

または = z g の金 または = 等々

* 別々の価値表現の無限の系列、統一性を欠く表現

③ 一般的価値形態：各種の商品の価値がただ一つの商品の使用価値の量で表現される

1 着の上着 = 90kg のコメ

3 足の革靴 =

45 束の蠟燭 =

z g の金 =

等々の商品の一定量 =

* 諸商品はコメを共通の媒介として、質的に同等なもの、したがって量的にのみ比較されるものとして現れる、コメを作る稲作労働 = 人間労働一般の存在形態、コメ = 他のすべての商品と直接に交換されうる物、つまり一般的等価物として通用するようになる

④ 貨幣形態：貴金属（金）が一般的等価物としての機能を果たすようになる

90kg のコメ = z g の金

1 着の上着 =

3 足の革靴 =

45 束の蠟燭 =

等々の商品の一定量 =

* すべての商品の価値が金の使用価値の一定量で表現される

5) 商品交換の意義

労働生産物の商品への転化の 2 要因：他人のための使用価値と価値を有すること

商品の持ち手の変換としての交換

ミクロ的にみる：私的動機にもとづく生産活動、個性と社会性の矛盾の展開

マクロ的にみる：私的諸労働の生産物の交換によって、社会的分業の諸環の連鎖の再構築、
交換比率の安定による社会的分業のバランスの維持

第3章 貨幣と市場経済の発展

I 価値尺度機能：貨幣は観念的な存在で足りる、実在的な貨幣は必要ない

諸商品の価値を質的に同等で量的にのみ比較あれうるものとして統一的に表現する機能
すべての商品の価値 → 金の使用価値の一定量という価格形態で表現される

価格の度量基準：1. 5 g の金 = 1 円

商品の価値とその価格の不一致の可能性

労働生産物でないもの、価値をもたないものが価格をもち、商品化される可能性

II 流通手段機能：商品の交換を媒介する手段（購買手段）

1) 商品流通：商品の循環の絡み合い

・ 販売と購買の分離、貨幣による交換行為の媒介、購買のための販売

C r — M — C s （C は商品、小文字アルファベットは商品種類、M は貨幣）

・ ある商品の生産者にとっての販売は別の商品の生産者にとっての購買である

・ 商品流通の説明（テキスト 53 ページの図参照）

C_r —MとM— C_r 、M— C_s と C_s —Mは絡み合っている

C_r の生産者、 C_q の生産者、 C_s の生産者が商品流通の媒介でつながっている

商品は生産→流通→消費と移動し消えていく

貨幣の通流：貨幣は流通界に留まり同じ機能を果たし続ける

商品流通と貨幣通流の逆立ちした表象：商品が生産され販売されるので、商品流通を媒介する貨幣が通流するのに、貨幣が能動的に商品を流通させるように見える

社会的分業（生産者たちの関係）が商品の流通（商品と貨幣の関係）として現象する

商品の生産者と消費者が商品の流通によって媒介される

生産者は供給、消費者は需要として社会的に総括される

2) 流通手段としての貨幣の象徴化

- ・ コイン（鑄貨）：品目と量目の規定、1円金貨の品位=90%、量目=1.6g
強制通用力を与えられた貨幣：法貨
流通過程で使用されて摩滅→金貨の象徴化
補助鑄貨：銀貨、銅貨による金の代用：小額取引で頻繁に使用→大きな摩滅
紙幣：無価値の紙が政府によって強制的に金貨に代わる流通手段として機能する
1万円の製造単価：27.8円、千円の製造単価：18.2円

3) 流通必要貨幣量とインフレーション

流通必要貨幣量は諸商品の価格総額と貨幣の流通速度（回転数）によって規定される

$M = PT / V$ ：必要量の限度を超えた発行→インフレーション

M（流通必要貨幣量）、V（貨幣の流通速度）、P（平均的価格水準）、T（商品の数量）

→ $PT = MV$ （貨幣数量説）：VとTを一定とすれば、物価水準Pは貨幣数量で決定

III 価値保蔵手段：時間を越えて価値を維持する手段

流通界から引き上げられ、価値を保蔵する手段として機能：保蔵貨幣、蓄蔵貨幣

- ・ 不確実な将来に対処するための流動性の形態の確保
- ・ 際限のない貨幣欲：貨幣に内在する矛盾から生まれる魔物
質的には無限だが、量的には制限されている→貨幣の所持者を蓄蔵へと駆り立てる
市場社会の徳目：消費における禁欲、食欲→生産における勤勉、規律
- ・ 蓄蔵貨幣：流通手段としての貨幣の量を調節する貯水池の役割、流通界への還流

IV 支払手段

1) 支払い手段としての貨幣の機能と信用取引の発生

債権と債務の関係を清算する機能、商品流通の過程を終結させる

- ・ 掛売りと掛買い、信用取引：商品の引渡しとその商品の価格実現との時間的分離
売り手が買い手に「信用を与える」ことで、市場経済のいっそうの活性化と発展
債権—債務関係の発生

債務を背負った生産者は債務履行日までに支払手段としての貨幣を調達せねばならない
貨幣を獲得するための販売の必要性→販売は購買のためではなく、自己目的になる

2) 貨幣恐慌の可能性と信用貨幣

- ・ 支払いの連鎖→支払不能の連鎖反応
- ・ リスクを回避するための信用貨幣の生成
債務証券（約束手形）とその将来の貨幣の代理物としての流通
手形の信用貨幣への転化：貨幣節約効果

3) 信用恐慌の可能性と銀行貨幣

- ・ 資金需要の急増→資金調達の困難→信用恐慌
- ・ 銀行による商業手形の割引：銀行券の流通、銀行による信用創造

V 世界貨幣

1) 世界貨幣の機能

国民的制服（円鎊貨、ポンド紙幣など）を脱ぎ捨て、金地金に戻る

一般的価値尺度：一定量の金を共通の物差しとして円とドルの交換比率が計算される

1897年：1ドル=2円

一般的支払い手段：貿易収支などの差額を決済する機能

一般的購買手段：従来の国際的な生産物流通バランスが突然崩れた場合など

富一般の絶対的な物質化：賠償金の支払いなど

2) 金本位制から管理通貨体制へ

3) IMF体制

4) 変動相場制

第4章市場経済とその特質

私的利益の是認と分散的意思決定にもとづく経済システム

1) 制度（ルール）の束としての市場

市場が存在し機能するためには諸制度（ルール）の支えを前提とする。

- ・ 私的所有権の確定と保護
- ・ 取引される商品と権利の内容の明確化
- ・ 契約の執行の保障
- ・ 貨幣制度

2) 私的所有権（財産権）の確定による安定的な経済活動

- ①財の利用を可能にする
- ②財の譲渡を可能にする
- ③財の利用可能性を決定する
- ④収益（利潤）を得させる

3) 貨幣による市場経済の発展

私的生産者たちの貨幣への信頼にもとづくシステム

一般的交換手段（一般的購買力）としての貨幣：何でも購買できる力

- ① 価値尺度機能：円、ドルのような度量単位により、商品の価格単位を定める
- ② 流通手段機能：あらゆる商品の交換を媒介する
- ③ 価値保蔵手段機能：価値を保存して、将来へと持ち越す機能
- ④ 支払い手段機能：債務を精算する機能

生産（社会的分業）と消費のプロセスを媒介する

4) 市場経済の強み

- ① 私利・私欲を是認し、不断の改良と改善を個人または企業にまかせたこと
- ② 多様性：財とサービスの多様性、職業、技能、企業の多様性
- ③ 新規性（新しいものの出現）：イノベーション
新製品、新生産方法、新素材、新市場、新しい組織
- ④ 局所的知識の発見と普及：ハイエクの経済思想

5) 市場経済の弱み：現在はあまりにも過小評価されている

- ① 市場のみでは成立しない：私的所有権の確定などの制度が必要である
- ② 事後的調整：過剰生産ないし品不足の可能性、生産者と消費者の関係が見えない
- ③ 貧富の差を拡大する傾向：ロシア、中国、ラテンアメリカ、今日のアメリカと日本
- ④ 経済的調整のコストを個人負担（失業、倒産、貸し倒れ）
- ⑤ 非排除性と非競合性をもつ財（公共財）を提供できない：環境保全、公園、道路、教育
非排除性：対価を支払わない人々の利用を排除できない
非競合性：ある人の消費によって他の人の消費が減らないこと
- ⑥ 逸脱増幅機能が内蔵されている（インフレ、デフレ、金融危機など）

第5章 剰余価値の生産

はじめに：資本主義経済の3つの特徴

- ① 商品生産の一般化：ほとんどの財とサービスが商品として市場で売買されている
- ② 財やサービスを作り出す人間の能力である労働力の商品化：賃労働または雇用労働
- ③ 社会の生産のあらゆる部面で、諸資本（企業）がより多くの利潤獲得をめざして競争
労働生産性の上昇、労働時間の延長、品質改善、新製品開発

I 労働市場の成立と二重の意味での自由な労働者

- ① 労働市場の成立：労働力——賃金——消費財の商品流通と商品——貨幣——商品が重なり、市場経済が社会の全域を覆うようになる
- ② 二重の意味での自由な労働者
 - ・ 人格的自由：職業選択や居住の自由

- ・ 生産手段からの自由：生産手段や生活手段から切り離され、自分の労働力を売る以外に生活できない存在
 - * 労働者が所持する労働力が商品であるためには、その使用权を一定の時間ぎめで繰り返し販売することが必要である：奴隷労働との違い
 - * ILO（国際労働機関）の基本理念：「労働は商品ではない」
労働力は販売後もその消費を一般商品のように買手の自由に委ねてはならない
派遣労働の急増と買い叩き：労働力が一般商品のように扱われている
 - * 労働基準法による労働時間についての制限：1週間40時間、1日8時間
実際には、30代～40代の男性の労働時間：週平均50時間
4人に1人は月80時間以上の時間外労働（残業）
使用者による労働力の酷使→過労死、うつ病などの増加
- ③ 労働力の価値：労働者の生活の再生産に要する生活手段の生産に必要な社会的に必要な労働量、したがって必要生活手段の価値によって決まる
- ・ 労働者本人の維持費
 - ・ 家族の維持費
 - ・ 労働力の養成費（教育費）

II 労働力の日価値と時間賃金、出来高賃金

① 労働力の日価値の式

$$\text{労働力の日価値} = 365A + 52B + 4C + \text{etc} / 365$$

例えば、労働力の日価値＝8000円、1日の労働時間＝8時間、1時間の労働が新たに生み出す価値＝2000円とすれば、労働力の日価値に相当する時間は4時間となる。この4時間は労働力の自己維持に必要な価値に等しい価値を生み出す労働量という意味で「必要労働時間」と呼ばれる。8時間から4時間を引いた残りの4時間は「剰余労働時間」と呼ぶことができる。

② 賃金と労働力の価値との関係

労働力の日価値→その貨幣表現、労働力の1日当たりの価格、日賃金

労働力の平均的日価値、1日の平均的労働時間、1時間当たりの賃金（賃金率）

- ・ 時間賃金＝労働力の平均的日価値／1日の平均的労働時間（時給、週給、月給）
時間賃金では、賃金は労働力の価格ではなく、一定の労働の価格として現れる。全労働が支払われたように見えるが、労働者が行った労働は剰余労働を含んでいる
- ・ 労働時間と賃金の関係
賃金の大きさについて考える場合、労働時間の長さをつねに念頭におく必要がある

表 5 - 1 労働時間と賃金

	労働時間	日賃金	時間賃金
A 社	7 時間	10,500	1,500
B 社	8 時間	11,200	1,400
C 社	9 時間	11,700	1,300

(注) 時間外労働に対する割増賃金は考慮していない

・日本の賃金格差 (図 5 - 1)

男性フルタイム労働者 2505 円 (100)、女性フルタイム労働者 1682 円 (67)

男性パート 1012 円 (40)、女性パート 937 (37)

女性パートの時間賃金は男性フルタイムの時間賃金の 35~37%の水準に留まっている

・出来高賃金：製品の数量に応じて賃金が支払われる、能率給の基本形態

出来高賃金 = 労働力の平均的日価値 / 1 日の平均的出来高

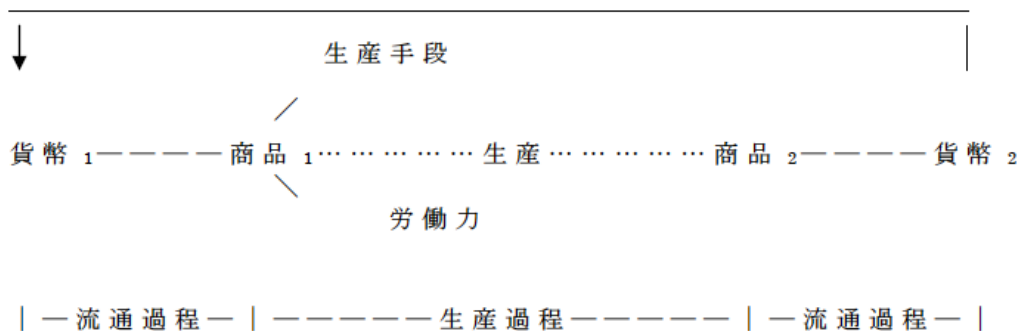
労働者のやる気を刺激し労働の強度を高める効果

労働監督の多くの部分を節約する

1 日当たりの生産個数を増やす競争の結果 → 平均的生産個数の上昇 → 単価の切り下げ → 全体の賃金総額および平均賃金のすえおき

III 資本と剰余価値

1) 剰余価値はどこから生まれるのか



第5章 剰余価値の生産 (続き)

1) 剰余価値 s はどこから生まれるのか

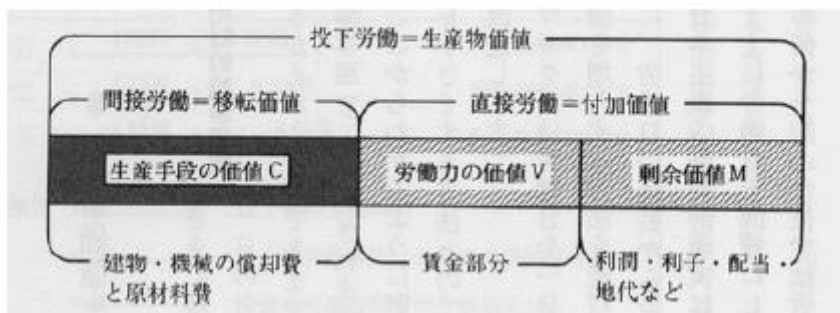
資本：貨幣を生む貨幣、利潤を生む貨幣

資本の運動図式によれば、貨幣 2 は貨幣 1 よりも大きくなければならない

貨幣 2 と貨幣 1 の差額が剰余価値 = 利潤である

流通からは s は発生しない。商品の価値以上、価値以下の売買は社会全体では相殺される s は生産過程から発生すると考えるほかはない。資本によって購入される 2 商品、生産手段と労働力のうち、労働力商品に秘密が隠されている。生産過程において労働力の支出から生み出される価値は労働力の価値よりも大きく、その差から s が生まれる。

図 5 - 2 資本のもとで生産された商品の価値



2) 不変資本と可変資本

$$\bullet s = w - m = (c + n) - (c + v) = n - v$$

つまり、剰余価値 s は付加価値 N と労働力価値 v との差額である s が発生するためには、 $n > v$ という関係が成立しているからである

なお、 s 剰余価値、 c 生産物に移転される生産手段の価値、 n 生産過程で付加された価値、 v 労働力の価値、 m 投下された資本の価値、 w 生産された商品の価値、

• c が不変資本、 v が可変資本と呼ばれる理由

I V 剰余価値生産の 2 つの方法

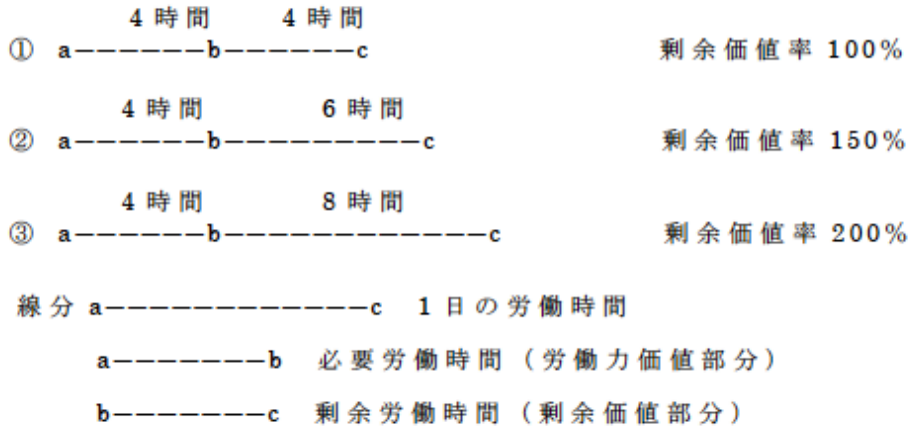
1) 絶対的剰余価値の生産

労働日 = 必要労働時間 + 剰余労働時間

8 時間 = 4 時間 + 4 時間とすれば、剰余価値率 s/v は 100% となる

必要労働は 4 時間で一定、労働者の実質賃金も一定とすれば、剰余価値を増やすには労働時間を長くするしかない。②のように、労働時間を①よりの 2 時間延長すると、労働時間は 10 時間になり、剰余価値率は 150% になる。労働時間延長によって剰余価値を増大させる方法を剰余価値の生産という。

図 5 - 3 絶対的剰余価値の生産



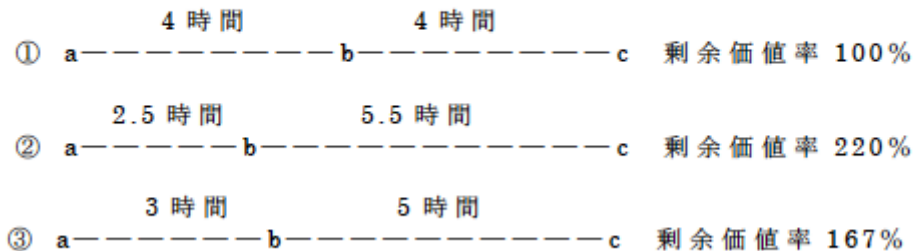
- ・ 1672 年の農業労働者の労働時間：10 時間労働／1 日→18 世紀後半の産業革命を契機に労働時間の延長開始→19 世紀前半の平均労働時間、12 労働時間
- ・ 過重労働による健康破壊から労働者を保護する労働時間の制限と短縮の動く
- ・ 1833 の工場法（児童労働の禁止）、1847 年の 10 時間労働法（女性と年少者を対象）、1860 年代に 10 時間労働の普及、時間労働制を求める運動、現在は週 5 日、40 時間労働制
- ・ 1 日の労働時間には、それを超えては労働力の正常な再生産が阻害される肉体的・精神的な限界がある：睡眠、食事、入浴の時間、精神の発達のための交際、文化、教養の時間

2) 相対的剰余価値の生産

労働力の価値の低下をつうじた必要労働時間の短縮による方法

生活手段生産の労働生産性の上昇→労働力の価値の低下→必要労働時間の短縮

図 5 - 2 相対的剰余価値の生産



- ・ 実質賃金は一定で、労働力の価値の低下によって必要労働時間が短くなった後も、労働者は以前と同様の量の生活手段を購入できる。→労使による労働生産性成果の分け合い

3) 特別剰余価値の生産

- ・ 個々の企業は相対的剰余価値の生産を意図して生産性上昇を追求するのではない

2008年春学期政治経済学入門試験問題（担当者：若森）

1以下の文章の（ ）の中に下記の語群の（あ）～（ね）から適当な用語を選びなさい。

経済システムが持続的に維持されるには、すなわち再生産されるには、3つの条件を満たすことが必要である。第1は、原料や機械のように生産のために使用される（1生産財）と食料や衣類のような（2消費財）とが一定比率で年々生産されることが必要である。市場経済では、（3交換比率）の安定性を確保することによって、人間の生活に必要な財を提供するための（4社会的分業）が再生産される。（4社会的分業）とは、（5社会的総労働）がその社会の（6欲望の多様性）に応じてさまざまな種類の労働に分割され、各種の労働が個々の社会成員の専業として営まれることである。商品の（3交換比率）は商品の（7価値の大きさ）によって規定される。商品の（7価値の大きさ）は、その生産に要する（8社会的必要労働時間）によって決定されるので、（9労働生産性）の変化に（10反比例）して変動する。第2は、経済活動に（11労働力）を提供する人間が健康で文化的な生活の維持によって再生産されることである。資本主義経済における（11労働力）の正常な再生産は、（12長時間労働）の規制や（13最低賃金）の保障などの労働立法を通じて確保される。第3は、経済活動に資源を提供しその（14廃棄物）を浄化する自然と人間との関係が再生産されることである。再生産の第1と第2の条件は貧困層を多数抱える一部の（15発展途上国）では満たされていないが、（16先進国）では1980年代までは確保されてきた。しかし、経済のグローバル化にともなう（17労働市場）の（18規制緩和）によって多数のワーキング・プアが生まれ、再生産の第2の条件は（16先進国）でも充足されなくなっている。（19生物種）の喪失や（20地球温暖化）などにみられる地球環境の破壊と汚染は、市場経済が現状のままでは再生産の第3の条件を満たすことができないことを示している。

語群

（あ）社会的分業、（い）価値の大きさ、（う）社会的必要労働時間、（え）正比例、（お）奢侈財、（か）反比例、（き）労働力、（く）長時間労働、（け）生産財、（こ）交換比率、（さ）廃棄物、（し）発展途上国、（す）労働市場、（せ）金融市場、（そ）規制緩和、（た）生物種、（ち）消費時間、（つ）地球温暖化、（て）社会的総労働、（と）欲望の多様性、（な）最低賃金、（に）消費財、（ぬ）労働生産性、（ね）先進国

2以下の文章の（ ）の中に下記の語群の（あ）～（さ）から適当な用語を選び入れなさい。なお、同じ用語を何度でも用いることができる。

商品は価値と使用価値という2要因から構成され、前者は（1抽象的人間労働）を、後者は（2具体的有用労働）を表現している。ここで興味深い事実がある。個々の商品は、交換に先立って自分の価値を表現しなければならないが、それを自分の（3使用価値）で表現することはできず、別の種類の商品の（4使用価値）の一定量で表現しなければならない。90kgのコメ=1着の上着という（5単純な価値形態）では、1着の上着が90kgのコメに等値され、コメという商品の（6価値）が上着という商品の（7使用価値）の量で表

されていて、上着を作る裁縫労働はコメを生産した稲作労働と同一の（8 抽象的人間労働）の存在形態となっている。（9 全体的な価値形態）では、商品の（10 価値）は他の無数の商品の（11 使用価値）で表される。コメという商品の（12 価値）は、90kg のコメ=1 着の上着、または=3 足の革靴、または=4 5 束の蠟燭、または=z g の金、という式で表現される。この価値形態では、コメの（13 価値）は他の無数の商品の（14 使用価値）の量で表現され、これら無数の（15 使用価値）は互いに同等なもの、つまり（16 抽象的人間労働）の存在形態になっている。しかし、コメと同じようにすべての商品がその（17 価値）を他の無数の商品の（18 使用価値）の量で表現できるのであるから、（19 全体的な価値形態）は（20 単純な価値形態）を無数に集めた式にすぎず、価値表現の統一性を欠いている。（21 全体的な価値形態）の左辺と右辺を入れ替えると、各種の商品の（21 価値）がただ1つの商品の（22 使用価値）の量で表現される（23 一般的価値形態）が得られる。この価値形態では、無数の商品の（24 価値）がコメという一個同一の商品の（25 使用価値）の量で統一的に表現される。コメ商品を媒介にして、他のすべての商品が質的で同等なもの、量的にのみ比較されうるものとして現れている。そして、コメを作る稲作労働が他のすべての商品に表示される労働に等値されて、（26 抽象的人間労働）の存在形態になっている。つまり、この価値形態では、コメ商品は他のすべての商品の（27 価値）を統一的に表現すると同時に、他のすべての商品と直接的に交換可能な（28 一般的等価物）という社会的役割を担っているのである。商品交換の発展のなかで、（28 一般的等価物）という社会的役割が（29 貴金属）、とりわけ金に歴史的に固定されるようになると、（30 貨幣形態）が成立する。金の（31 使用価値）の量で表現された商品の（32 価値）は（33 価格）と呼ばれる。

語群

- （あ）一般的等価物、（い）貨幣形態、（う）価格、（え）価値、（お）使用価値、
- （か）抽象的人間労働、（き）具体的有用労働、（く）一般的価値形態、（け）全体的な価値形態、（こ）貴金属、（さ）単純な価値形態

3 （ ）の中に適切な用語を入れなさい。

市場経済で生産された財は商品として交換される。商品流通を媒介することで市場経済を発展させる貨幣には、諸商品の価値を統一的に表現する機能である（1 価値尺度）、商品の交換を媒介し銀・銅などの（2 補助貨幣）や紙幣で代替されて機能することが多い（3 流通手段）、流通から引き上げられ時間を越えて価値を維持する手段として機能する（4 価値保蔵手段）、債権債務の関係を清算する機能である（5 支払手段）、「国民的制服」を脱ぎ捨て一般的購買手段、一般的支払い手段として機能する（6 世界貨幣）、という5つの機能がある。労働市場の成立は労働力が商品として売買される関係の一般化を意味している。労働力商品の所有者としての労働者は、第一に奴隷や農奴とちがって（7 人格的自由）を有する存在であり、第二に（8 生産手段）から自由であって自分の労働力を売る以外には生活できない存在である。労働力商品の使用価値は労働力の利用そのもの、すなわち（9

労働)であり、その価値はその生産に社会的に必要な労働量、実際には労働者の自己維持に必要な**(10 生活手段)**の生産に社会的に必要な労働量によって決定される。労働力の価値は基本的には1日を単位として定義される。労働力の日価値が8000円、1日の労働時間が8時間、労働者が1時間の労働で生み出す価値が2000円だとすると、労働力の日価値に相当する労働時間は4時間となる。この部分を労働力の生産に必要な時間という意味で**(11 必要労働時間)**と呼べば、8時間から4時間を差し引いた残りの4時間は**(12 剰余労働時間)**と呼ぶことができる。後者は**(13 剰余価値)**に対応している。労働力の日価値は**(14 賃金)**の形態で、すなわち、一定量の労働に対する支払いの形で現象する。**(14 賃金)**の基本形態には**(15 時間賃金)**と**(16 出来高賃金)**がある。前者は労働力の平均的日価値を1日の**(17 平均的労働時間)**で除することで得られる。後者は労働力の平均的日価値を1日の平均的出来高で除することで得られる。**(16 出来高賃金)**は**(17 能率給)**の基本形態であって、労働者のやる気を刺激し労働の強度を高める効果がある。

5人間と自然との物質代謝の特徴を説明しなさい。

2009年春学期政治経済学入門模擬試験解答(担当者:若森)

1以下の文章の()の中に下記の語群の(あ)～(ね)から適当な用語を選びなさい。

経済システムが持続的に維持されるには、すなわち再生産されるには、3つの条件を満たすことが必要である。第1は、原料や機械のように生産のために使用される**(1 生産財)**と食料や衣類のような**(2 消費財)**とが一定比率で年々生産されることが必要である。市場経済では、**(3 交換比率)**の安定性を確保することによって、人間の生活に必要な財を提供するための**(4 社会的分業)**が再生産される。**(4 社会的分業)**とは、**(5 社会的総労働)**がその社会の**(6 欲望の多様性)**に応じてさまざまな種類の労働に分割され、各種の労働が個々の社会成員の専業として営まれることである。商品の**(3 交換比率)**は商品の**(7 価値の大きさ)**によって規定される。商品の**(7 価値の大きさ)**は、その生産に要する**(8 社会的必要労働時間)**によって決定されるので、**(9 労働生産性)**の変化に**(10 反比例)**して変動する。第2は、経済活動に**(11 労働力)**を提供する人間が健康で文化的な生活の維持によって再生産されることである。資本主義経済における**(11 労働力)**の正常な再生産は、**(12 長時間労働)**の規制や**(13 最低賃金)**の保障などの労働立法を通じて確保される。第3は、経済活動に資源を提供しその**(14 廃棄物)**を浄化する自然と人間との関係が再生産されることである。再生産の第1と第2の条件は貧困層を多数抱える一部の**(15 発展途上国)**では満たされていないが、**(16 先進国)**では1980年代までは確保されてきた。しかし、経済のグローバル化にともなう**(17 労働市場)**の**(18 規制緩和)**によって多数のワーキング・プアが生まれ、再生産の第2の条件は**(16 先進国)**でも充足されなくなっている。**(19 生物種)**の喪失や**(20 地球温暖化)**などにみられる地球環境の破壊と汚染は、市場経済が現状のままでは再生産の第3の条件を満たすことができないことを示している。

語群

(あ) 社会的分業、(い) 価値の大きさ、(う) 社会的必要労働時間、(え) 正比例、(お) 奢侈財、(か) 反比例、(き) 労働力、(く) 長時間労働、(け) 生産財、(こ) 交換比率、(さ) 廃棄物、(し) 発展途上国、(す) 労働市場、(せ) 金融市場、(そ) 規制緩和、(た) 生物種、(ち) 消費時間、(つ) 地球温暖化、(て) 社会的総労働、(と) 欲望の多様性、(な) 最低賃金、(に) 消費財、(ぬ) 労働生産性、(ね) 先進国

2以下の文章の()の中に下記の語群の(あ)～(さ)から適当な用語を選び入れなさい。なお、同じ用語を何度でも用いることができる。

商品は価値と使用価値という2要因から構成され、前者は(1 抽象的人間労働)を、後者は(2 具体的有用労働)を表現している。ここで興味深い事実がある。個々の商品は、交換に先立って自分の価値を表現しなければならないが、それを自分の(3 使用価値)で表現することはできず、別の種類の商品の(4 使用価値)の一定量で表現しなければならない。90kgのコメ=1着の上着という(5 単純な価値形態)では、1着の上着が90kgのコメに等値され、コメという商品の(6 価値)が上着という商品の(7 使用価値)の量で表されていて、上着を作る裁縫労働はコメを生産した稲作労働と同一の(8 抽象的人間労働)の存在形態となっている。(9 全体的な価値形態)では、商品の(10 価値)は他の無数の商品の(11 使用価値)で表される。コメという商品の(12 価値)は、90kgのコメ=1着の上着、または=3足の革靴、または=45束の蠟燭、または=z gの金、という式で表現される。この価値形態では、コメの(13 価値)は他の無数の商品の(14 使用価値)の量で表現され、これら無数の(15 使用価値)は互いに同等なもの、つまり(16 抽象的人間労働)の存在形態になっている。しかし、コメと同じようにすべての商品がその(17 価値)を他の無数の商品の(18 使用価値)の量で表現できるのであるから、(19 全体的な価値形態)は(20 単純な価値形態)を無数に集めた式にすぎず、価値表現の統一性を欠いている。(21 全体的な価値形態)の左辺と右辺を入れ替えると、各種の商品の(22 価値)がただ1つの商品の(23 使用価値)の量で表現される(24 一般的価値形態)が得られる。この価値形態では、無数の商品の(25 価値)がコメという一個同一の商品の(26 使用価値)の量で統一的に表現される。コメ商品を媒介にして、他のすべての商品が質的で同等なもの、量的にのみ比較されうるものとして現れている。そして、コメを作る稲作労働が他のすべての商品に表示される労働に等値されて、(27 抽象的人間労働)の存在形態になっている。つまり、この価値形態では、コメ商品は他のすべての商品の(28 価値)を統一的に表現すると同時に、他のすべての商品と直接的に交換可能な(29 一般的等価物)という社会的役割を担っているのである。商品交換の発展のなかで、(30 一般的等価物)という社会的役割が(31 貴金属)、とりわけ金に歴史的に固定されるようになると、(32 貨幣形態)が成立する。金の(33 使用価値)の量で表現された商品の(34 価値)は(35 価格)と呼ばれる。

語群

(あ) 一般的等価物、(い) 貨幣形態、(う) 価格、(え) 価値、(お) 使用価値、

(か) 抽象的人間労働、(き) 具体的有用労働、(く) 一般的価値形態、(け) 全体的な価値形態、(こ) 貴金属、(さ) 単純な価値形態

3 () の中に適切な用語を入れなさい。

市場経済で生産された財は商品として交換される。市場経済が発達するためには、(1 社会的分業) の発達にくわえて、(2 生産手段) の私的所有という条件が必要である。さらに、市場経済が大きく発展するためには、私的所有の保護、(3 契約履行) の保障、貨幣制度といった諸制度が必要である。私的所有の保護は、経済主体に財の(4 利用)、財の譲渡、財処分の自由な(5 意思決定)、財利用による(6 成果) の領有を保障することによって、市場経済の発展に寄与するのである。また、商品流通を媒介することで市場経済を発展させる貨幣には、諸商品の価値を統一的に表現する機能である(7 価値尺度)、商品の交換を媒介し銀・銅などの(8 補助貨幣) や紙幣で代替されて機能することが多い(9 流通手段)、流通から引き上げられ時間を越えて価値を維持する手段として機能する(10 価値保蔵手段)、債権債務の関係を清算する機能である(11 支払手段)、「国民的制服」を脱ぎ捨て一般的購買手段、一般的支払い手段として機能する(12 世界貨幣)、という5つの機能がある。

4 市場経済の長所と短所をそれぞれ4つ、列挙しなさい。

4 () の中に適切な用語を入れなさい。

労働市場の成立は労働力が商品として売買される関係の一般化を意味している。労働力商品の所有者としての労働者は、第一に奴隷や農奴とちがって(1 人格的自由) を有する存在であり、第二に(2 生産手段) から自由であって自分の労働力を売る以外には生活できない存在である。労働力商品の(3 使用価値) は労働力の利用そのもの、すなわち(4 労働) であり、その価値はその生産に社会的に必要な労働量、実際には労働者の自己維持に必要な(5 生活手段) の生産に社会的に必要な労働量によって決定される。労働力の価値は基本的には1日を単位として定義される。労働力の日価値が8000円、1日の労働時間が8時間、労働者が1時間の労働で生み出す価値が2000円だとすると、労働力の日価値に相当する労働時間は4時間となる。この部分を労働力の生産に必要な時間という意味で(6 必要労働時間) と呼べば、8時間から4時間を差し引いた残りの4時間は(7 剰余労働時間) と呼ぶことができる。後者は(8 剰余価値) に対応している。労働力の日価値は(9 賃金) の形態で、すなわち、一定量の労働に対する支払いの形で現象する。(9 賃金) の基本形態には(10 時間賃金) と(11 出来高賃金) がある。前者は労働力の平均的日価値を1日の(12 平均的労働時間) で除することで得られる。後者は労働力の平均的日価値を1日の平均的出来高で除することで得られる。(11 出来高賃金) は(12 能率給) の基本形態であって、労働者の(13 やる気) を刺激し労働の強度を高める効果がある。

5 人間と自然との物質代謝の特徴を説明しなさい。

2010 春学期政治経済学入門

I 以下の文章の () の中に入る適当な用語を考え、解答欄に記入しなさい。なお、同じ用語を何度でも用いることができる。

商品は価値と使用価値という 2 要因から構成され、前者は (1) を、後者は (2) を表現している。ここで興味深い事実がある。個々の商品は、交換に先立って自分の価値を表現しなければならないが、それを自分の (3) で表現することはできず、別の種類の商品の (4) の一定量で表現しなければならない。90kg のコメ=1 着の上着という単純な価値形態では、1 着の上着が 90kg のコメに等値され、コメという商品の (5) が上着という商品の (6) の量で表されていて、上着を作る裁縫労働はコメを生産した稲作労働と同一の (7) の存在形態となっている。全体的な価値形態では、商品の (8) は他の無数の商品の (9) で表される。コメという商品の (10) は、90kg のコメ=1 着の上着、または=3 足の革靴、または=4 5 束のロウソク、または= z g の金、という式で表現される。この価値形態では、コメの (11) は他の無数の商品の (12) の量で表現され、これら無数の (13) は互いに同等なもの、つまり (14) の存在形態になっている。しかし、コメと同じようにすべての商品がその (15) を他の無数の商品の (16) の量で表現できるのであるから、全体的価値形態は単純な価値形態を無数に集めた式にすぎず、価値表現の統一性を欠いている。全体的な価値形態の左辺と右辺を入れ替えると、各種の商品の (17) がただ 1 つの商品の (18) の量で表現される一般的価値形態が得られる。この価値形態では、無数の商品の (19) がコメという一個同一の商品の (20) の量で統一的に表現される。コメ商品を媒介にして、他のすべての商品が質的で同等なもの、量的にのみ比較されうるものとして現れている。そして、コメを作る稲作労働が他のすべての商品に表示される労働に等値されて、(21) の存在形態になっている。つまり、この価値形態では、コメ商品は他のすべての商品の (22) を統一的に表現すると同時に、他のすべての商品と直接的に交換可能な (23) という社会的役割を担っているのである。商品交換の発展のなかで、この社会的役割が貴金属、とりわけ金に歴史的に固定されるようになると、貨幣形態が成立する。金の (24) の量で表現された商品の (25) は価格と呼ばれる。

解答欄

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

II 次の用語を簡潔に説明しなさい。

- 1) エコロジカル・フットプリント

- 2) 労働力商品の価値の構成要素

- 3) 二重の意味で自由な労働者

- 4) 貨幣の支払手段機能

- 5) 私的所有権の確定による安定的経済活動

III 市場経済の機能と限界について説明しなさい。

IV 労働過程の3要素、生産物、再生産、生産手段、生活手段などの用語を用いて、人間と自然との物質代謝について説明しなさい。

2011 春学期政治経済学入門練習問題

1 以下の文章の（ ）の中に入る適当な用語を考え、解答欄に記入しなさい。なお、同じ用語を何度でも用いることができる。

商品は価値と使用価値という2要因から構成され、前者は（1）を、後者は（2）を表現している。ここで興味深い事実がある。個々の商品は、交換に先立って自分の価値を表

現しなければならないが、それを自分の（3）で表現することはできず、別の種類の商品の（4）の一定量で表現しなければならない。90kgのコメ=1着の上着という単純な価値形態では、1着の上着が90kgのコメに等値され、コメという商品の（5）が上着という商品の（6）の量で表されていて、上着を作る裁縫労働はコメを生産した稲作労働と同一の（7）の存在形態となっている。全体的な価値形態では、商品の（8）は他の無数の商品の（9）で表される。コメという商品の（10）は、90kgのコメ=1着の上着、または=3足の革靴、または=45束のロウソク、または=zgの金、という式で表現される。この価値形態では、コメの（11）は他の無数の商品の（12）の量で表現され、これら無数の（13）は互いに同等なもの、つまり（14）の存在形態になっている。しかし、コメと同じようにすべての商品がその（15）を他の無数の商品の（16）の量で表現できるのであるから、全体的価値形態は単純な価値形態を無数に集めた式にすぎず、価値表現の統一性を欠いている。全体的な価値形態の左辺と右辺を入れ替えると、各種の商品の（17）がただ1つの商品の（18）の量で表現される一般的価値形態が得られる。この価値形態では、無数の商品の（19）がコメという一個同一の商品の（20）の量で統一的に表現される。コメ商品を媒介にして、他のすべての商品が質的で同等なもの、量的にのみ比較されうるものとして現れている。そして、コメを作る稲作労働が他のすべての商品に表示される労働に等値されて、（21）の存在形態になっている。つまり、この価値形態では、コメ商品は他のすべての商品の（22）を統一的に表現すると同時に、他のすべての商品と直接的に交換可能な（23）という社会的役割を担っているのである。商品交換の発展のなかで、この社会的役割が貴金属、とりわけ金に歴史的に固定されるようになると、貨幣形態が成立する。金の（24）の量で表現された商品の（25）は価格と呼ばれる。

解答欄

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

2. () の中に下記の語群 (あ) ~ (や) から適切なものを選び、解答欄に記入しなさい。

実質的な意味での経済は、(1) を充足するために、人間が自然および (2) に対して働きかえる行為の全過程を含んでいる。この経済的過程の (3) には、財やサービスの継続的なやりとりが (4) 間で行われる (5)、それが権威をもつ (6) と社会構成員との間で行われる (7)、それが合理的に行動する (8) の間で行われる (9)、という3つがある。資本主義経済は、(10) や自然といった生産活動によって生産されたものではないものが

(11) として取引される経済であり、高度に発達した市場経済である。資本主義経済が持続的に維持されるには、すなわち再生産されるには、3つの条件を満たすことが必要である。第1は、原料や(12)のように生産のために使用される(13)と食料や衣類のような(14)とが一定比率で年々生産されることが必要である。市場経済では、(15)の安定性を確保することによって、人間の生活に必要な財を提供するための(16)が再生産される。(16)とは、(17)がその社会の(18)に応じてさまざまな種類の労働に分割され、各種の労働が個々の社会成員の専業として営まれることである。第2は、経済活動に(10)を提供する人間が健康で文化的な生活の維持によって再生産されることである。資本主義経済における(10)の正常な再生産は、(19)の規制や(20)の保障などの(21)を通じて確保される。第3は、経済活動に(22)を提供しその(23)を浄化する自然と人間との関係が再生産されることである。再生産の第1と第2の条件は貧困層を多数抱える一部の(24)では満たされていないが、(25)では1980年代までは確保されてきた。しかし、経済のグローバル化にともなう(26)の(27)によって多数の(28)が生まれ、再生産の第2の条件は(25)でも充足されなくなってきた。 (29)の喪失や地球(30)、(31)などにみられる地球環境の破壊と汚染は、資本主義経済が現状のままでは再生産の第3の条件を満たすことができないことを示している。

語群：(あ)労働市場、(い)再分配、(う)経済人、(え)自由、(お)機械、(か)商品、(き)労働力、(く)長時間労働、(け)生産財、(こ)民主主義、(さ)交換、(し)貨幣、(す)互酬、(せ)金融市場、(そ)規制緩和、(た)生物種、(ち)消費時間、(つ)温暖化、(て)社会的総労働、(と)欲望の多様性、(な)最低賃金、(に)消費財、(ぬ)先進国、(ね)労働生産性、(の)奢侈財、(は)廃棄物、(ひ)人間集団、(ふ)酸性雨、(へ)資源、(ほ)物的欲求、(ま)社会的分業、(み)交換比率、(む)ワーキング・プア、(め)制度化、(も)労働基準法、(や)商品流通

3 再生産という考え方を、企業、家計(家族)、環境のどれかを例にして説明しなさい。